

容值



小楠壽典様 小野田孝男様 田村幸子様 曺熙哲様 岩崎明子様 甲賀祐慈様(耕月寺)

IETBOOK作戦事務局様 一般社団法人日本海老協会様

されがまな

カットボランティア 野口伏美様







行旗後記

1年遅れのオリンピック・パラリンピックが開催され、とても印象的な年になりました。

2021年も残すところあと2カ月。コロナウイルス流行前のようにノーマスクで過ごせる日を夢見ながら、1日1日を大切に過ごしたいと思います。



車

(保育士 綿貫こころ)

項

· ·	11-1	-	
	•		
身 長			cm
11. -			<u> </u>
体 重			kg

事

終



动细与世

帰省期間

11月19日~11月21日 12月24日~1月4日 1月21日~1月23日 2月10日~2月13日



帰省については児童相談所の許可のもと、各御家庭 へ連絡しておりますので、宜しくお願い致します。尚、 予定されている帰省期間は、新型コロナウィルスの状 況に応じて変更する可能性があります。ご承知のほど お願い申し上げます。

令和3年度

第561号

編集・発行

川奈臨海学園

〒414-0044 伊東市川奈 509-7

To 0557-45-0509 FAX 0557-45-5169

E-mail rinkai-g@ninus.ocn.ne.jp

URL http://kawana7.ec-net.jp

問題記念日

施設長 竹居昭子



昭和30(1955)年10月1日に、川奈臨海学園は事業をスタートしました。今年は第66回開園記念日となりました。例年、開園記念日に合わせて子どもたちと職員とホテルへ出かけ開園記念の式典と会食会を催します。しかし、ここ数年新型コロナウイルス感染対策のため施設内での会食会となっています。

節目を共有し、ともに祝うことは連帯感を高めます。 66回目の開園記念日に「たまたま、学園で生活していた。」、「たまたま、学園に勤務していた。」ということかもしれませんが、これが「縁~えん~」です。川奈臨海学園は、人が出会い、支え合い、刺激し合い、安心で安全な居場所と成るべく、皆が一生懸命生きている場所です。





今年の永年勤続者表彰者は 10 年勤続石井結希さん、2 0 年勤続山田暢大さん、3 0 年勤続関野ひな子さんです。これからも引き続き学園の力になってほしいと期待しています。子どもたちへ開園記念について、1 0 月 1 日の夕方に各ユニットを施設長が回り説明をし、翌 1 0 月 2 日の夕食時にお祝いの食事をしました。

令和3年は新しい施設が完成し、子どもたちへも家 庭的できれいな生活環境を整えてあげることができま した。これからも川奈臨海学園は歴史を重ね、子どもた ちの最善の利益のため、子どもたちを尊重し、一人ひと りに則した支援をし、子どもたちの将来を見据えてい きたいと思います。皆様のご支援に支えられています。 今後ともよろしくお願い致します





(4)

><*>****

夏も終わり、虫の音深まる季節となりました。秋風が時折肌寒く感じる日もありますが、女子ユニット児童は皆元気に過ごしています。8月の終わり頃から、学園駐車場の一部を区切って利用し、晴れた休日は、バドミントンや鬼ごっこといった遊びを用い、体を思いっきり動かして外遊びを満喫しています。コロナウイルスの影響で、なかなか外で遊べない事が続いていた為、久々の外遊びでとても溌剌と活動していました。このようにとても元気な子どもたちですが、最近は手芸に興味を持ち、縫い物や自分好みの手作りアクセサリーを作り、ゆったりとした時間を過ごす姿も見られます。

針と糸を器用に使いながら自分たちで試行錯誤を 繰り返しながらアクセサリーを完成させます。自分た ちで作ったアクセサリーを肌身離さずつけている子、 様々な色のビーズを組み合わせて、出来たものを職員 に見せてくれる子等様々で、個性豊かなアクセサリー が出来上がっていました。自分達で作ったものだけに、 とても大切に身に付けている姿が印象的に感じます。

(保育士 加藤幸大)





秋風が涼しい季節になりました。幼児ユニットでは、 芸術の秋を楽しんでいます。

少し前から、職員が絵具や習字道具を持ってきて、遊ぶことがあったため、週末の前になると、子どもたちからリクエストがあがります。週末になり、さっそく絵具や習字道具を持ってくると、いつも嬉しそうに準備を手伝ってくれます。

絵具遊びでは、この日は1つの大きな紙をテーブルいっぱいに広げ、それぞれが好きなように描きました。5歳児さんになると、絵具の扱い方も慣れたもので、年下の子に絵具の出し方や筆の使い方など、優しく教えてあげていました。出来上がった1枚の絵は、様々な模様と色で、とても素敵な作品になりました。

また、習字道具を初めて持ってきた日には、興味津々で筆を触ったり、墨を擦ったりしていました。道具の名前も「はんし」「ぶんちん」「すずり」と、はじめて知る名前ばかりですが、遊んでいるうちに段々と名前や扱い方も覚えていきます。筆の柔らかい書き心地や、墨の

匂い、半紙の手触りなどを味わいながら好きな文字を 書きました。最後に消しゴムで作った名前ハンコを押 して完成です。それぞれの味がある良い作品が出来上 がりました。

実りの秋、今後もたくさんの体験を子どもたちとしていきたいと思います。



うだるように暑い夏を見送り、台風に連れられて秋が やってきました。

新舎に移り初めての夏は生憎の世情のこともあり、リビングでオリンピックの応援をするのが精いっぱい。元気が有り余る高学年~中高生が集まる男子ユニットにはほんの少し物足りない日々だったのではないでしょうか。

そんな中の8月も終わる頃、少しでも季節を感じられるようにと催されたのが学園の駐車場で行なわれた花火です。最初は「大きな打ち上げ花火はないの?」や「他の場所でやりたい!」と言っていたみんなですがいざ始ま

ってみると少しずつ「もう1本頂戴!」「線香花火でどっちが長く続くか勝負しよう!」と無邪気に楽しむ姿を見せてくれました。

秋には何ができるでしょうか。お月見、ハロウィン、焼き芋、遠足と思い起こすだけで秋と言えば…という行事がいくつも思い浮かびます。まだまだ厳密な感染予防などを必要とする日々は続きますが、それでもやってくる季節の中で子どもたちにとって素敵な思い出となるものを作っていければと思います。

(児童指導員 太田和子)



><*>**

今年の夏休みは、コロナ感染拡大防止の為予定していたイベントを行うことができず、子どもたちにとってはとても寂しい夏休みになってしまいました。がっかりしている子どもたちへ、旧館を見学に行こうかと提案したところ「行きたい!」ととても喜んでくれ、夏休み明けの日曜日に旧館へ行く事になりました。

当日は天気も良く、ドライブがてらアイスを買いに行き、旧館に着くと子ども達は自分の部屋に行き、懐かしそうに見て回り「こんなに天井低かったっけ?」「懐かしいー!」など言いながら思い思いの場所で買ってきたアイスを食べるなどして過ごしました。



そして鬼ごっこをする事になり、広い旧館の中を元気よく走り回り、旧館の中に久しぶりに子どもたちの大きな声が響き回りました。帰りがけにはマクドナルドでテイクアウトをしわかなで食べました。

市内を少しドライブしただけのちょっとしたイベントでしたが、楽しい思い出がいっぱい詰まった旧館を取り壊す前にもう一度見ることができ、とても素敵な時間を過ごす事ができたように感じました。

(保育士 菅原波留美)

